

平成17年度CSI構築推進委託事業成果報告書

千葉大学附属図書館

1. 委託業務の実施内容

千葉大学附属図書館では、機関リポジトリ(千葉大学学術成果リポジトリ: CURATOR)に蓄積した研究成果を軸として、次の事項の研究開発及び調査を行った。

(1) 本学研究成果の統合的な検索・提供を可能とするシステムの研究開発

産学連携や情報公開をはじめとする社会のニーズに的確に応えるため、CURATORや研究者データベース等の各システム間の連携やより訴求力を持つインタフェースの研究開発を実施する。

(2) 学術コンテンツ等の統合的な検索・提供を可能とするシステムの研究開発

大学構成員に対する情報サービスの高度化を実現するために、各学術コンテンツ固有のインタフェースではなく、相互関連性や主題を意識した提供方法、またリンクリゾルバの活用による効率的な情報ナビゲーションの研究開発を実施する。

(3) 機関リポジトリ登録コンテンツの整備拡充

科学研究費補助金による研究成果報告書等、大学として積極的公開が期待される研究成果について、コンテンツ提供依頼、電子化、及び機関リポジトリへの登録作業を行う。

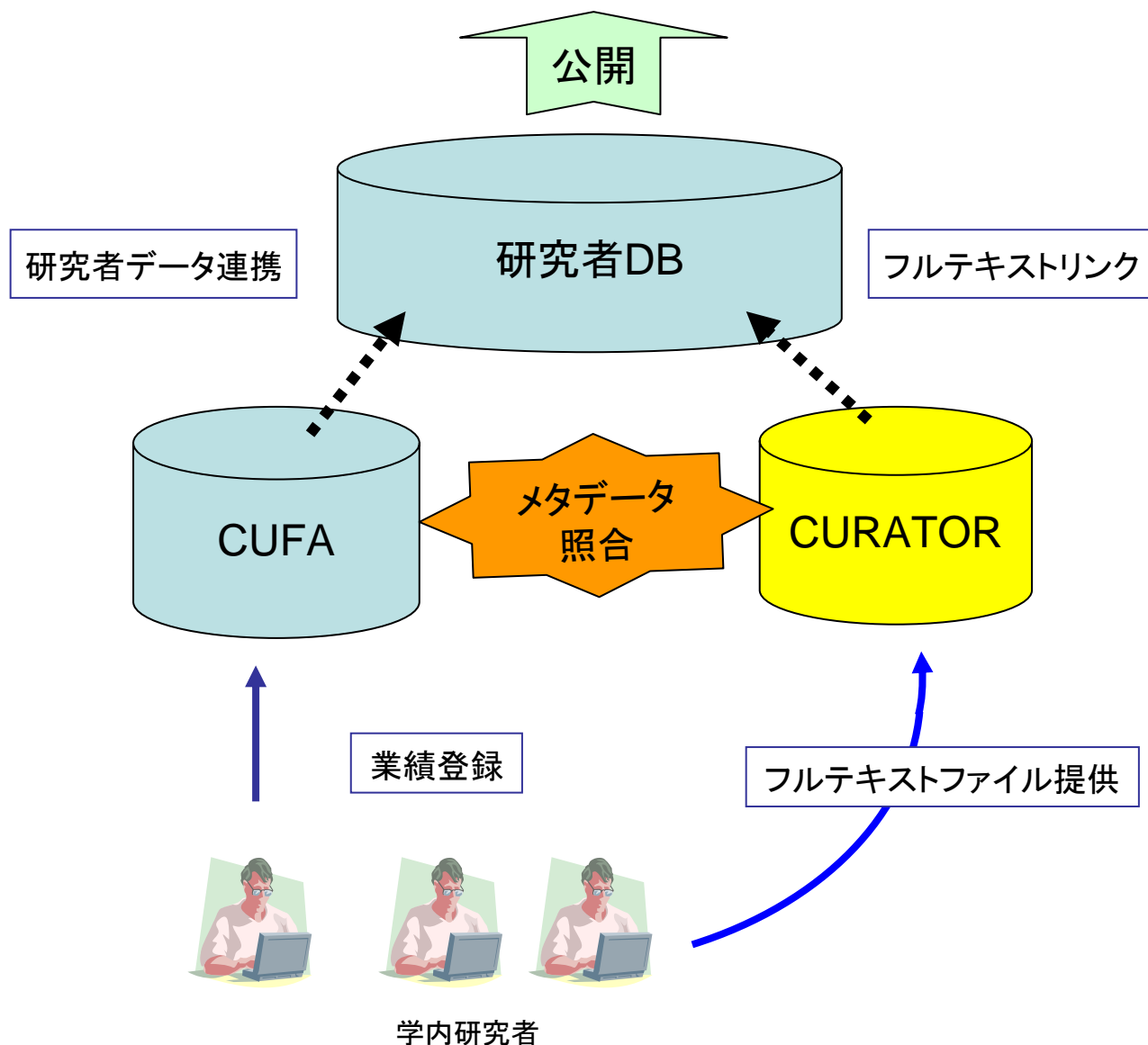
(4) 研究開発成果共有のための調査研究

上記研究開発の成果物はユーザによる評価検証を踏まえて、本学において実際に活用するものとする。また、将来的にこれらの成果物を汎用性のあるオープンソースとして公開するために必要な調査研究を行う。

2. 委託業務の成果

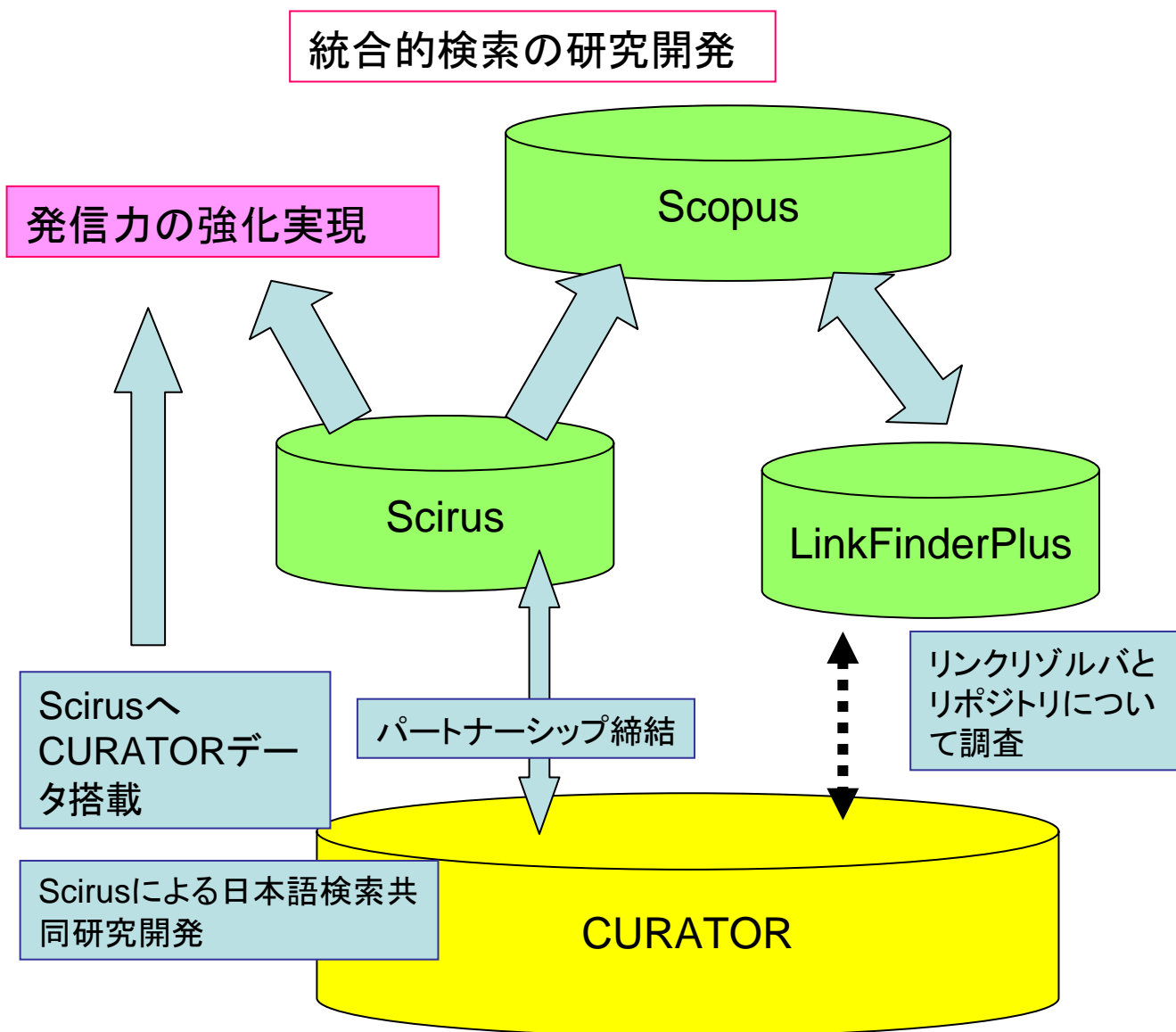
(1) 本学研究成果の統合的な検索・提供を可能とするシステムの研究開発

千葉大学多目的利用分散型学術成果等DBシステム(以下CUFA)との連携を行った。CUFAに登録された各研究者の研究業績と本学リポジトリ(以下CURATOR)に登録された研究成果の突合せを行い両者の差異を掲示するシステムを作成した。これによりCUFAと、CUFAデータを基に開発する千葉大学研究者データベースシステムと、CURATORとの連携の基盤が完成した。今後、この3つのデータベースを融合し千葉大学研究ショーウィンドウを構築して行く予定である。



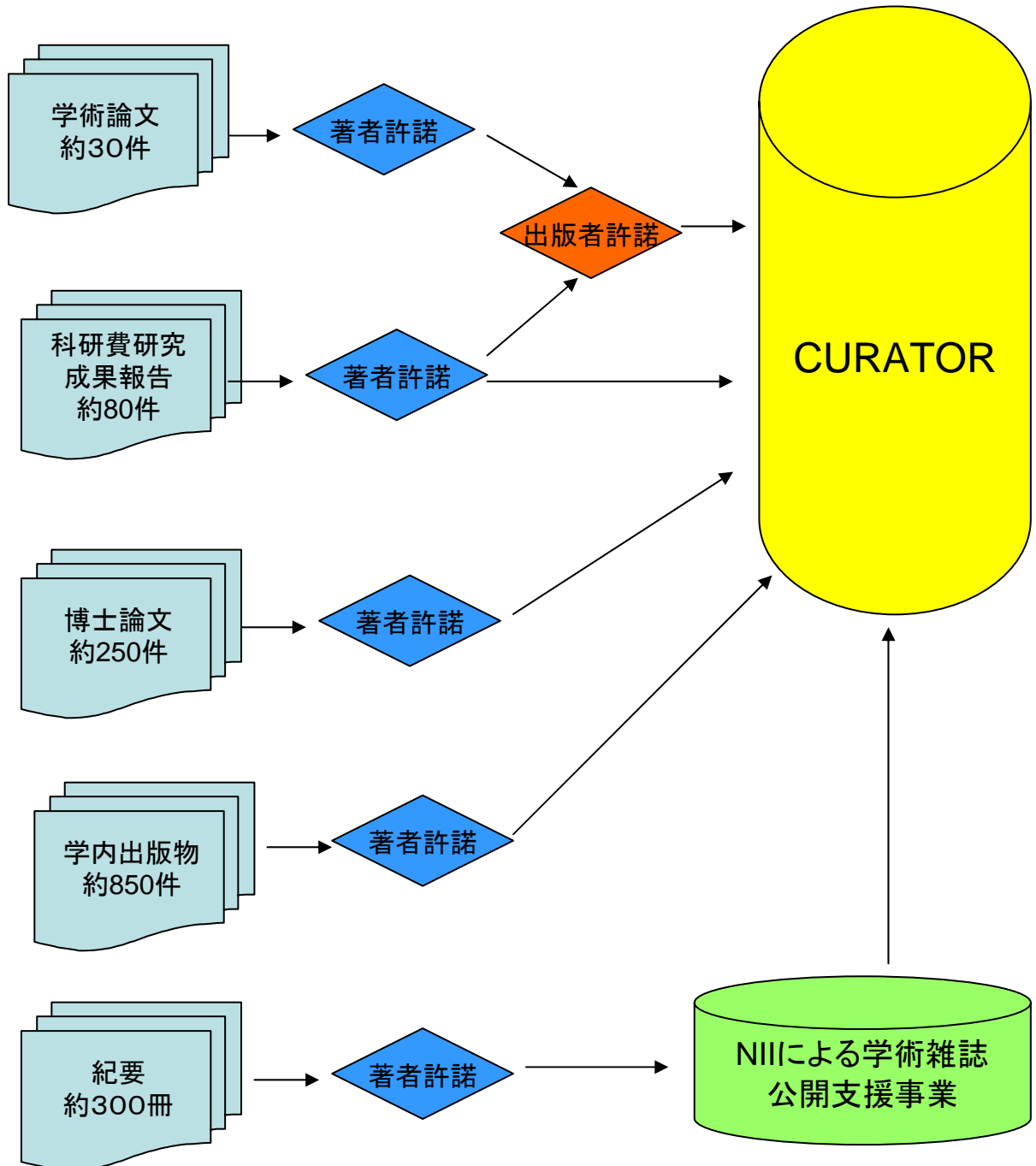
(2) 学術コンテンツ等の統合的な検索・提供を可能とするシステムの研究開発

エルゼビア社の無料学術情報検索エンジンScirusと共同研究を行い、Scirusの日本語検索を可能とした。また、CURATORはアジア太平洋初のScirusパートナーとなり日本のリポジトリとして初めて検索対象として登録された。本学研究者に対しては、エルゼビアのナビゲーションシステムScopusを提供し、ScopusからもScirusを通じてCURATORが検索できる環境を構築した。と同時に、CURATORがScirus, Scopusから検索可能となったことにより、CURATORの可視性・認知性を世界的に高めることに成功した。さらにエンデバー社のLinkFinderPlusを導入し、リンクリゾルバを通じてCURATORを効率的に発信する方法を調査研究中である。



3) 機関リポジトリ登録コンテンツの整備拡充

科学研究費補助金による研究成果報告書等、今まで発信機会の少なかった重要な研究成果を学内から収集し、電子化及びCURATORへの登録作業を行った。また、国大図協が実施した学会アンケートを踏まえて、該当学会に1件ずつ、許諾確認・許諾依頼を継続して実施している。



(4) 研究開発成果共有のための調査研究

本事業により海外の機関リポジトリの現状調査を行い、北米、イギリス、ポルトガル、シンガポールを訪問した。北米ではコンテンツ収集の方策と、それを推進するリエゾンライブラリアンの役割について調査した。イギリス、ポルトガルでは、コンテンツ提供の義務化についてそれぞれの大学の方策を調査した。シンガポールでは、学術コンテンツの統合検索事例を調査するとともにアジアのリポジトリの現状を調査した。また、機関リポジトリシンポジウム、日米オープンフォーラム、機関リポジトリワークショップを開催し議論を行った。これらの催しにより国内外の状況を調査するとともに、学内外の関心を高めリポジトリ振興に一石を投じる活動を行った。

海外訪問先のリポジトリ構築状況調査結果(簡易版)

国	訪問先	現状	コンテンツ収集	特色ある取り組み	今後の活動
カナダ	トロント大学	4450件	研究者へ説明・ロコミ	Scirusと連携	研究者と図書館のつなぎとしてのサブジェクト・リエゾンの活用
		学内出版物中心 グリーン論文少	学生による登録作業	OCA(Open Content Alliance) 拠点	
USA	ロチェスター大学	283件 学内出版物中心	アシスタントによる登録作業	Dspaceツール開発 ENCompass、SFXにより統合検索環境構築	研究者と図書館のつなぎとしてのサブジェクト・リエゾンの活用
	メリーランド大学	2005年夏公開	退職予定教員の勧誘 専任職員確保		
	ジョージメイソン大学	2005年夏公開			学内会議で勧誘
	オハイオ州立大学	2003年公開 5200件	1年でアクセス数10倍に コレクション・マネージャー やサブジェクトライブラリアンが担当		業績DBとの連携
イギリス	サザンプトン大学	13000件	看板教授をプロモーションに利用	E-prints開発	E-Prints次バージョンで著者同定機能を強化
			登録作業は秘書や部局事務スタッフ	部局DBと資源共有	One-Stop Archiving 模索中
ポルトガル	ミーニョ大学	2003年公開 4400件	MandatePolicy(登録義務化)2004年より導入	登録数と予算配分を連動	
			登録作業は秘書や部局事務スタッフ	登録支援ツールで負担軽減	
				アクセス統計公開 →モチベーションアップへ	
シンガポール	南洋工科大学	なし	学内構成員向けのデータベース(登録数23000件) 学位論文は図書館に提出する仕組み確立 雑誌論文は未登録	ENCompassにより統合検索環境構築	
	シンガポール国立大学	なし		ENCompass、LinkFinderPlusにより統合検索環境構築	